D 教室 撮影実習－商品別撮影実践

■撮影商品ジャンル ファッション

「衣類などの素材感」の撮影

■撮影データ

デジタルカメラ：Canon PowerShot SX230 HS
露出補正：±0.7 / ホワイトバランス：オート / シャッター速度：自動 / 絞り値：f5.6 / ISO：自動
画像加工：レベル補正（明るさ）の微調整 / 撮影用照明：RIFA-F40x40cm1 台 / 撮影所要時間：約3分

※写真全体にフワーっと、薄い霧がかかったような状態になっていますが、その方法については、最後に説明します。

撮影のポイント

衣類などファッション関連商品をネットショップで販売する場合、その商品の「素材感」を伝える商品写真も必須です。

「やわらかさ」「フワフワ感」「光沢感」「丈夫さ」「伸縮性」「レース」など、様々な特徴がある素材。手にっ取って商品を分かってもらうことができないネット販売では、それらの「素材感」をどうやって伝えるのか、とても大切な要素となります。

もちろん、言葉（文字）による表現も重要で必要なことですが、何よりも影響力があるのは、やはり写真です。

そこで、衣類などの「素材感」は、どんなことに気を付けて撮影したらそれが伝わる商品写真になるのかを、解説していきます。

D 教室 撮影実習－商品別撮影実践

■撮影商品ジャンル ファッション

「衣類などの素材感」の撮影

● 置き方の工夫

1．ペタンと延ばして置いてはダメ

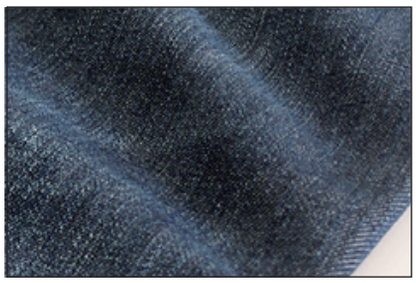
まずはじめに、失敗と言える写し方を確認しておきましょう。
わざと、素材感が伝わりづらい置き方で撮った写真を見て下さい。

服のように、ただでさえ平面的な商品を、シワができないようにと、ペタンと延ばした状態で撮ったら、「ただ布を写しただけ」の写真になってしまいます。まるで、紙を写したかのようで、これでは素材感など伝わるはずもありません。

素材感を伝えるための商品写真で、まず考えなくてはならないのは、できるだけ**立体感を持たせた置き方の工夫**をすることです。

2．自然で（自然に見える）美しく見えるウェーブを作って置く

それでは、置き方に工夫をして撮影した商品写真を見てみましょう。



通販カタログなどでよく見ると思いますが、**適度なウェーブを作って商品を置く**ことで、立体的になり、それによって、素材感もイメージしやすくなるのです。
また、カメラの位置も、商品の真上方向から撮影するのではなく、低い位置から撮影することで、ペラペラの紙のように見えず、"立体的な物"としてイメージしやすくなります。

上から撮影

低い位置から撮影

D 教室 撮影実習－商品別撮影実践

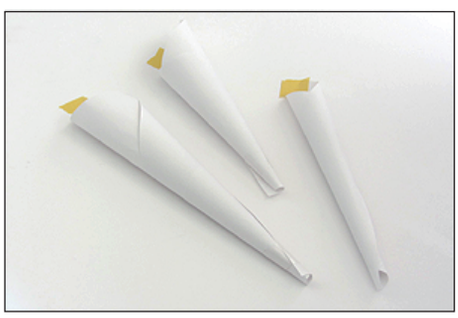
■撮影商品ジャンル ファッション

「衣類などの素材感」の撮影

● 置き方の工夫

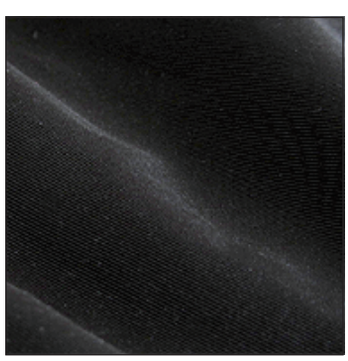
1）均一に形の整ったウェーブを作るコツ

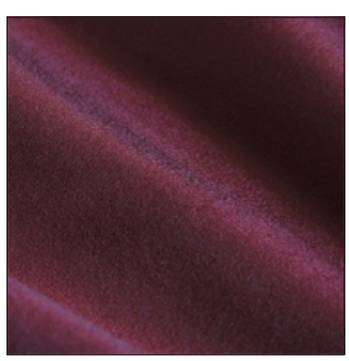
きれいなウェーブを作って撮る場合、土台となる下地（背景）にちょっとした工作をしておくと、商品のセッティングが簡単になります。"百聞（百文）は一見に如かず"ということで、工作した下地をご覧下さい。



背景（下地）となる紙の上に、作りたいウェーブの型になるものを、テープなどで張り付けておくだけです。
※実際に商品を置いて、ウェーブのでき具合を確認しながら、作っておきます。

その上に撮影する商品を置けば、望みどおりのウェーブがいつでもつけられるというわけです。
色違いの商品を、それぞれ撮影するときなどには、撮影の作業効率を高められるのはもちろん、すべて同じ、均一のウェーブを付けた写真にすることができます。





また、自然に見えるウェーブを作るコツとしては、**「同一方向に向かってウェーブを作る」**ことが基本です。
ウェーブの方向がバラバラだと、単なるシワのように見えてしまうので、風に流されてウェーブができたかのように、同じ方向にウェーブを作るのがポイントです。

D 教室 撮影実習－商品別撮影実践

■撮影商品ジャンル ファッション

「衣類などの素材感」の撮影

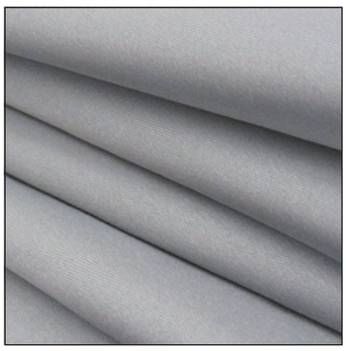
● 置き方の工夫

2）ウェーブの大きさや数で、素材感を表現する

ウェーブを作るとき、その大きさや数によって、立体感の伝わり方が違ってくることも知っておいて下さい。

・小さなウェーブを多めに作る→薄くて柔らかそうな質感

薄くて柔らかな素材なら、当たり前のことですが、小さなウェーブがたくさんできやすいはずです。商品写真を撮影するときにも、それをイメージしてウェーブを作れば良いのです。



下地に工作をする場合は、ペンのような細い棒状の物を土台にしてみて下さい。
ただ、薄い素材は透けやすいものが多いので、商品と同系色や透明な物にするなど、土台となる物の選択に注意が必要です。

・大きなウェーブを少なく作る→厚くて丈夫そうな質感

厚めのレザーやジーンズ素材などは、しっかりとした素材の商品が多いと思います。そういった素材はシワもできにくいはずなので、ウェーブは大きく、数は少なめにします。

このように、ウェーブのつけ方だけでも、素材感の表現に繋がっていることを意識して、無造作に置いて撮るのではなく、きちんと考えてセッティングすることが大切です。

次は「レース部分」を撮影する場合の置き方の工夫についてです。

D 教室 撮影実習－商品別撮影実践

■撮影商品ジャンル ファッション

「衣類などの素材感」の撮影

● 置き方の工夫

3．撮影する商品の下に空間を作って置く

レース部分は、とても細い糸で細かく編まれているので、通常の素材よりも撮影が難しいと言えるかもしれません。
また、前述したようなウェーブがあると、デザインがわかりづらくなるので、レースを撮影するときには、平らに置くのが基本となるでしょう。

とりあえず、白い背景の上に置いて撮ってみます。

商品及び背景の色にもよりますが、背景の上にそのまま置くと、背景に同化してしまって、わかりづらくなることが多いです。
そこで、**"背景の上にそのまま置かない"工夫**をしてみます。

どうでしょう、かなりわかりやすくなって、写真の印象度もアップしています。
どのようなセッティングで撮影したかというと。

両側に台となる箱を置いて、そこに透明なアクリル板を乗せ、その上に商品を置いて撮影しています。

このように商品の下に空間を作る、つまり、**商品が浮いているような状態にする**ことで、商品であるレースの影ができず、レースの糸だけが見えることとなります。

また、背景との距離があるため、レース部分にデジタルカメラのピントを合わせたら、背景は、若干ですがピンボケで写ることになります。そのため、ピントの合っているレース部分が、よりはっきりと分かりやすい写真になるのです。
レース部分（あるいは総レースの商品）を撮影するときには、ぜひ試してみて下さい。

※生地の上にレースが重ねられている場合などの撮影方法については、次の「光と影の使い方」の中で解説します。

D 教室 撮影実習－商品別撮影実践

■撮影商品ジャンル ファッション

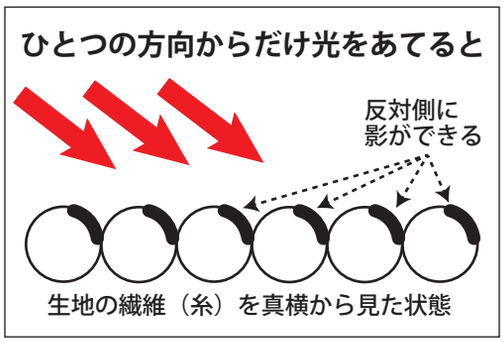
「衣類などの素材感」の撮影

● 最大のポイントであり、基本中の基本は、光と影の使い方

1．「影」があるからこそ分かる

繊維を織って作られた生地の素材感を写真で表現するために、最も重要なのは、「影」を作って撮影することです。それも「繊維の影」をです。

どんなに細い繊維でも、立体物である限り、必ず「影」ができます。その**「影」を、あえてわかりやすくできるように光をあてる**ことで、繊維の集合体である、生地の素材感も伝わりやすくなると考えて下さい。



影ができることで、繊維の織り目の輪郭線となり、素材の感じが分かりやすい写真になります。

生地の素材感を伝える商品写真では、織り込まれた繊維それぞれの影を作るようなイメージで、**「一方向からだけ光をあてて撮る」**ことが大切なのです。

光があたっているところと影になるところ、この二つがあることで、編まれ方・織られ方がわかる写真になるのです。どんなに細い繊維で織られた（編まれた）生地であってもです。

全体にバランス良く光をあてた写真

一方向からだけ光をあてた写真

生地の上に重ねられたり、編み込まれたりしているレースも、繊維の影を作るようなイメージを持って、一方向からだけ光をあてることで、よりわかりやすくなります。

D 教室 撮影実習－商品別撮影実践

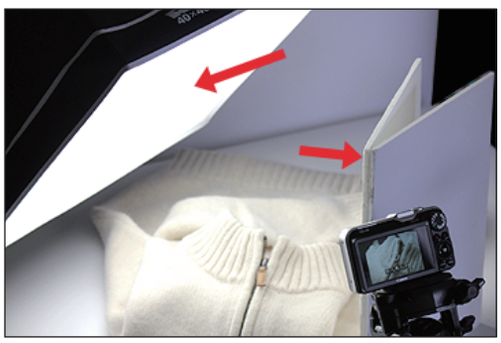
■撮影商品ジャンル ファッション

「衣類などの素材感」の撮影

7ページ目

● 最大のポイントであり、基本中の基本は、光と影の使い方

一方向からだけ光をあてたとき、影が強過ぎると感じる場合は、「レフ板」を使って、影のでき方（濃さ）を調整します。



■撮影状況
撮影用照明は「RIFA（リファー）-F40×40cm」を使用

レフ板なし

やや離れた位置にレフ板あり

かなり近い位置にレフ板あり

どの方向から、どれくらいの距離で光をあてたら良いのかは、繊維の太さや織られ方（あるいはどんな照明を使っているか）など、商品や道具によって異なるので、実際に照明を動かしながら確認してみる必要があります。

左側に撮影用照明

斜め右後方に撮影用照明

後方（奥）に撮影用照明

・光を一方向だけからあてて、繊維の影を作って撮る
・影が強過ぎる場合は、レフ板で調整する

この２点と、さらに、前述した置き方の工夫をすることで、素材感が伝わりやすい商品写真になるのだと考えて下さい。

D 教室 撮影実習－商品別撮影実践

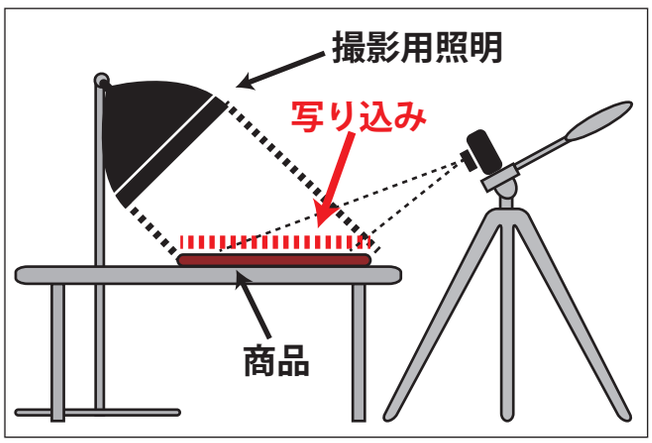
■撮影商品ジャンル ファッション

「衣類などの素材感」の撮影

● 最大のポイントであり、基本中の基本は、光と影の使い方

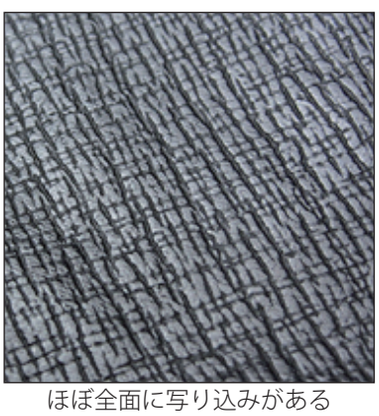
２．光沢感は「撮影用照明の写り込み」で表現する

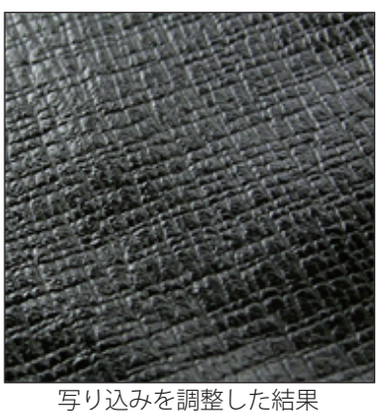
レザーのように、生地の光沢感を表現したい場合はどうしたら良いでしょう。答えは、**「撮影用照明の写り込み」を利用して撮影する**ことです。



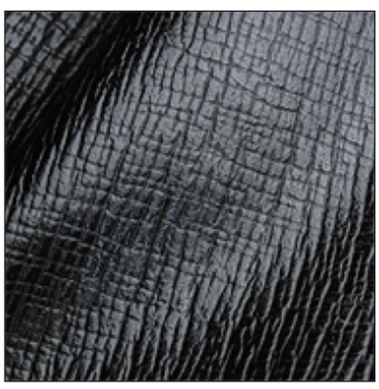
撮影用照明の発光面が商品に写り込むと、その部分（範囲）は白く光って見えます。白く光って見える部分（範囲）は、どれくらいが良いのか、撮影用照明の写り込み加減を、位置を微調整しながら見つけます。

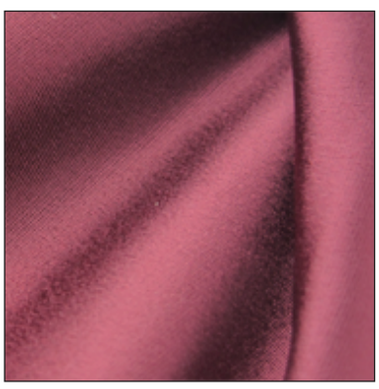
写り込みなし


ほぼ全面に写り込みがある


写り込みを調整した結果

光沢のある素材は、写り込みのでき方を確認しながら、ウェーブをつくるなど、置き方も考えて撮影してみましょう。





D 教室 撮影実習－商品別撮影実践

■撮影商品ジャンル ファッション

「衣類などの素材感」の撮影

● 最大のポイントであり、基本中の基本は、光と影の使い方

靴やバッグなどの、素材の光沢感を表現する場合も同様です。

ただし、**きれいな写り込みを作るための照明は、広い発光面を持った撮影用照明が必要**となります。

織物の素材感を伝える場合には、卓上用スタンドライトなどでも十分な効果が得られる場合がありますが、光沢感を美しく見せるためには、「点」で照らす照明ではなく、「広い面」で照らす撮影用照明を使ってこそ、きれいな写り込みが作れるのです。

スタンドライトなど、点光源の写り込み

撮影用照明による、面光源の写り込み

3．大胆な明暗差で「高級感」を強調する

ファッション関連の商品写真では、多くの場合、写真全体が明るいイメージの方が好印象になると思います。

しかし、「高級感」を強調したい場合は、思い切って商品の後ろ側、つまり背景を暗くして、明暗差をつけた方が効果的なこともあります。

D 教室 撮影実習－商品別撮影実践

■撮影商品ジャンル ファッション

「衣類などの素材感」の撮影

● 最大のポイントであり、基本中の基本は、光と影の使い方

これは推測ですが、写真（商品）全体が明るくはっきりと見えるのではなく、あえて暗い部分も作って、すべてが見え過ぎないようにすることで、非日常的な印象になって、特別感が高まるのかもしれません。

撮影状況は、商品のやや後ろ側から、商品に対して撮影用照明の光を逆光気味にあてて、商品の後ろ側が暗くなるようにしています。※背景も黒を使っています。

商品そのもの、あるいは、商品の置き方にもよりますが、逆光気味に光をあてると、商品の手前側は暗くなり過ぎることが多いので、その場合は、レフ板を使って、商品手前側の暗部の調整をすることが必要です。

レフ板なし

レフ板有り

明暗差の大きい写真は、好みが分かれるところでもあるので、「このように撮りましょう！」と言い切ることはできませんが、特に非日常的な高級感を強調したいときには、試してみてはいかがでしょうか。

D 教室 撮影実習－商品別撮影実践

■撮影商品ジャンル ファッション

「衣類などの素材感」の撮影

見せ方の工夫

素材感を伝える商品写真にするために、「置き方」「光のあて方」を説明してきましたが、それ以外にも、見せ方で工夫できることがあります。

分かりやすさや、印象度を考えて見せ方も工夫してみましょう。

1．大きく、アップで見せる

単純ですが、とても重要なことです。

そもそも、パソコンや携帯端末の画面で、実物と同じような精細さで見てもらうことは不可能と考えなくてはなりません。

だからこそ、広い部分を写すのではなく、**素材感の伝わりそうなところを、できるだけ大きくアップで表示できるように撮影することが必要**です。

広い範囲を撮影

大きくアップで撮影

比べてみると、違いは一目瞭然です。

美しく魅力的な商品写真も大切ですが、**素材感の写真では、何よりもまず、「伝わるかどうか」「分かってもらえるかどうか」こそが、最優先事項**となります。

だからこそ、大きく、アップで撮影するように心掛けることが大切なのです。

2．特徴的な部分を見せる

商品によって、デザイン的にぜひとも見せたい部分があるかと思います。そういった部分をしっかりとアップで撮影することで、同時に素材感も感じられる写真にすることができます。

広い範囲を撮影

大きくアップで撮影

商品全体のデザインを見せつつ、さらに、特徴的な部分も見て欲しいと思う方が多いかもしれませんが、パソコンや携帯端末のディスプレイで見る画像では、細部まではわからないというのが現実です。

ですので、部分的なデザインを見てもらいたいときには、その部分を中心に、大きくアップで撮影して、同時に素材感も伝わるように、と考えた商品写真の方が、ユーザーにとって親切であり、良い商品写真と言えるのではないでしょうか。

D 教室 撮影実習－商品別撮影実践

■撮影商品ジャンル ファッション

「衣類などの素材感」の撮影

見せ方の工夫

3．動きを加えて表現する

素材が持っている、「伸縮性」や「フワフワ感」といった、機能的な面を伝えたい商品もあると思います。
その場合は、商品を置いて撮影するだけではなく、手で引っ張った状態を撮るなど、動きを加えて撮影することをおすすめします。

伸縮性を伝える

フワフワ感を伝える

機能面に特徴のある素材は、その機能をどうやって見せたら分かってもらえそうかを考えて、その状況を再現して撮影することができれば、それが最も有効と言えるのではないでしょうか。

まとめ

素材感はどういう商品写真なら伝わるか、「考えること」「できること」はたくさんあります。
とは言え、ひとつひとつはそれ程難しいことでなく、慣れてしまえば繰り返しの作業でもあるので、大変なことと考えなくて大丈夫です。実際にやってみると、意外と簡単にできることを実感していただけるでしょう。

特に、置き方や見せ方の工夫については、通販カタログなどを見たら、すぐに真似できそうなヒントが満載です。ぜひそういう視点で、雑誌などの広告写真も観察してみて下さい。

最後に、ここで作例として見ていただいてきた写真は、全部、コンパクトタイプ（今の実売価格で2万円もしないようです）のデジカメで撮影したものです。
一眼レフのような高機能デジカメなら、より表現力を高められるかもしれませんが、ごく普通のコンパクトタイプのデジタルカメラでも、十分に撮影できるのだと、ぜひわかっていただきたいと思います。

※衣類を、ハンガーに掛けた状態で、きれいなウェーブを作る方法については、「タンクトップの撮影」に解説があるので、ご覧になってみて下さい。

end

D 教室 撮影実習－商品別撮影実践

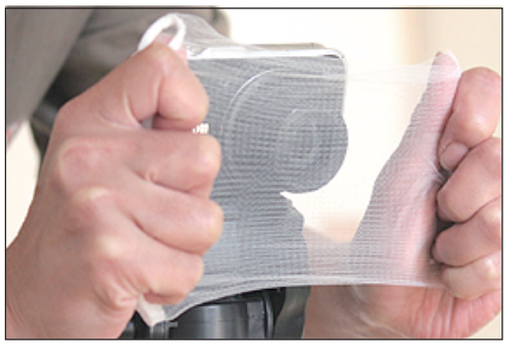
■撮影商品ジャンル ファッション

「衣類などの素材感」の撮影

13 ページ目

補足情報：写真全体に薄い霧が掛かったようにする方法（メインの写真で使ったテクニック）

写真全体にうっすらと霧が掛かったようにすると、フワーっとした印象になるので、素材の「フワフワ感」を表現するときなどに効果的です。



用意するのは、台所のシンクの排水溝などに使う、**ゴミ取り用のネット**です。いろんな種類があるかと思いますが、**網目が細かくて伸縮性の高い「ストッキングタイプ」で白**が適しています。

撮影する構図や、ライティング、そしてデジタルカメラのセッティングなど、必要な作業を終えたら、デジタルカメラを、セルフタイマーで撮影できるように設定します。

シャッターを押して、セルフタイマーがスタートしたら、ネットを両手で軽く引っ張って延ばし、ズームの先端部分に軽く押し当てるようにします。（ネットが直接レンズに触れないように注意して下さい。）

こうするだけで、メインの写真のように、全体がフワーっとした印象の写真を撮影することができます。